

このレターは、当協会にご縁を頂いている経営者の皆様にお届けしています。
答えのない21世紀で奮闘されている経営者の皆様へ

Vol. 88
2024.07.01

U 協 近 畿 通 心

～U協を使い倒しましょう～

公益財団法人 日本電信電話ユーザ協会
近畿事業推進部

【はじめに】

近畿事業推進部の川畑です。今年の梅雨入りは平年より遅い6月21日頃と気象庁から発表がありました。この時期、可憐な白い花と香りを愉ませてくれる近くの公園のくちなしも、心なしか雨が降らず寂しそうな感じを受けます。4年前はたくさん咲き誇っていたくちなしの花も、今年はぽつぽつとまばらに咲いています。気候変動の影響でしょうか、寂しい梅雨です。雨が降らず水不足にも困りますが、災害発生も困ります。ほどほどに降って欲しいものですね。

鹿児島伊佐の私達の畑ではトウモロコシ、じゃがいも、キュウリ、ナス、トマト、スイカが順調に育っています。サツマイモは、今年は残念ながらダメなようです。日頃は妻が管理をしてくれています。私は毎月帰った時に草とりなどをしており、今月はキュウリの収穫を愉しめそうです。生のまま食べたり、漬物にして食べるのも楽しみです。

2拠点生活も1年以上経ちますが、愉しく過ごしています。

5月はあるビジネスクラブや、大阪4地区の理事会で講演をしました。ChatGPTと生成AIの話は旬なテーマなので、皆さん熱心に聴いてくださいました。6月は京都のセミナー、大阪・京都・兵庫支部理事会等でも講演しました。昨年から講演依頼をたくさん頂いています。ICT活用に関心をもって頂き、本当に嬉しいです。講演していて感じるのは、世の中でもっとICTが身近に使われるようになると日本の景色も変わるのに、中小企業では活用があまり進んでいないので、ここを何とかできないかということです。お話することは自分の知識のアップデートにもなりますし、少しでも世の中でICT活用が進んでいけば嬉しいです。7月25日には全国型ICTセミナーもあります。今月は8月のビジネスパーソンのDXリテラシー講座資料作成、9月の全国参加型ICTセミナーの企画・準備を進めていきます。

今月は電話対応コンクール1次予選を終え、地区大会等が開催されます。選手の皆さんには日頃の成果を出し切っていただき、自身の応対力をブラッシュアップさせてください。暑い夏が待っていますが、元気に頑張っていきます。

今月も「U協近畿通心」を愉しんでいただけると嬉しいです。



毎年、愉ませてくれるくちなしの花、好きですね。今年は大変ですが、凛として咲いています。今年もありがとうございます。

【ICT用語豆知識 「GPT4o(オー)」ってご存じでしょうか】

ChatGPTが凄い速さで進化しています。OpenAIは、今年2月に「テキスト文」をプロンプトにいれると自動的に1分間動画を作成してくれるsora、4月には自然な会話ができるGPT-4o(ジーピーティーフォーオムニ)を公開しました。GPT-4oでは、新機能が追加されただけでなく、性能も強化されました。マルチモーダル対応や応答速度の向上、多言語対応能力の強化など、大幅にアップデートされています。GPT-4oでは、「画像→文章」や「文章→画像」、「音声→文章」、「音声→画像」と、複数の形式のデータを同時に処理できるマルチモーダルなAIモデルへと進化しています。従来のモデルよりもさらに返答速度が向上しました。また、GPT-4oモデルでは、音声によるやり取りも可能になりました。音声入力、最短で232ミリ秒(ミリ秒は1000分の1秒)、平均では320ミリ秒と人間同士の会話スピードと変わらず、スムーズなやりとりが実現されます。これ凄いですね。英語以外の言語、それも特に日本語における返答精度が大幅に向上しました。またChatGPTをGoogle DriveやMicrosoft OneDriveと連携することで、保存されているファイルをアップロードできるようになりました。詳細はP6にてご紹介します。ご覧ください。

前は、第117回「令和の電話対応教育」（2024.02.15）をご紹介しました。

今回は、第118回「電話が怖い」（2024.03.15）をご紹介します。

昔から、この世で怖いものと言えば、地震、雷、火事、おやじ、というのが定番でした。今では雷とおやじは姿を消し、ミサイルや病原菌がノミネートされます。ところが、この同じ質問を若い人にしますと、「電話」を挙げる人が多いのに驚きました。4月は、企業も自治体も、フレッシュな新人を迎える季節です。それだけにこの意外な回答がなぜ多いのかを考えます。

会社を辞めたい！

三年前のことです。高校時代の友人から相談を受けました。大手の商社の地方支社に配属になった息子が、入社3ヵ月で辞めたいと言っている。何とか説得してくれないか、と言うのです。小さい頃から家族ぐるみでつき合いがあり、その息子もよく知っていました。会って話を聞いて驚きました。国立大学を優秀な成績で出た彼の辞めたい理由が、「電話」から受けるストレスだったのです。

比較的先端の生活をしていた彼の家では、小さい頃から、家族それぞれに携帯電話を持たせていました。したがって家族間でも、電話を取り次ぐという経験がなかったのです。

また、固定電話がありませんから、大人がどんな言葉で会話をしているのか、それも知りません。ですから、社会人になって、勤め先の固定電話が鳴ると、どういう言葉で出たらよいのか、どう取り次いだらよいのか、皆目見当がつかなかったそうです。ところが、彼の会社では、電話の取り次ぎは昔から新人の役目でした。固定電話時代に育った先輩たちは、戸惑っている新人たちには、全く理解がありません。鳴っている電話にすぐ出ないと、「早く出ろ！」と叱られる。上司先輩の名前も、仕事の分担もまだ把握できていませんから、どこにどう取り次いだら良いのか分からない。用件に直ちに反応できないのです。誰に聞いたら良いかが分からない。挙句の果てに、言葉づかいがなっていないと、先輩からもお客さまからも叱られる。やがて彼はストレスから、辞めたいという気持ちに追い詰められていったのです。

事情は分かりましたが、私は何の説得もしませんでした。彼のひ弱で甘い考え方に少々腹が立ったからです。今の苦しい状況がいつまで続くものなのか。

そしてそれを乗り切るには、**辞めて逃げるのではなく、立ち向かって変えてゆくことです。う！とだけ言いました。**結局、彼は辞めませんでした。そして2年で本社に異動したそうです。

その後、彼のような**電話恐怖症は、ここ数年増えており、社会問題化**しつつあることを知りました。決して特異なことではなかったのです。

電話には責任がある

令和になった頃から、電話の位置づけは大きく変わりました。SNSやLINE、AIが幅を利かせる通信の世界では、電話は極めてマイナーな存在に映るでしょう。しかし、どんなにIT機器が進歩しても、**基本にあるのは人間のつながりです。**

電話は音声を通じて、人間と人間がつながります。そのつながりの深さは、文字だけのつながりとは大きく違います。**声には「情」があります。**コミュニケーションがあるからです。

「電話を怖い」と思わせたのは、周囲の責任です。学生時代の新人たちにとっては、電話は単なる情報交流、情報交換の道具でした。おしゃべりを楽しめれば良かったのです。しかし、**会社にかかってくる電話は、お客さまとの最先端の接点です。責任のある重要なツールであることを、まず最初に教えなければなりません。**その上で、彼らが最初に担うのが、**1. 電話の受け方、名乗り方、2. 取り次ぎ、3. 取り次ぎに必要な組織図、そこに働く人の名前、4. トラブル時の初期対応、5. 事後の報告、確認**です。

多くの企業などでは、以上のことは当然教えているはずですが、ところが新人たちに聞くと、意外に知らないのです。電話はぶっつけ本番でした、と言うのです。教えていても、それはおざなりだったのでしょうか。「電話が怖い！」などと言わさないように、電話の責任の重さを、腹に落ちるように教えてください。

電話が守ってほしいもの

AIの時代、電話による通信手段はまだまだ激変するでしょう。その時代になっても守り抜きたいものが二つあります。**①は声による、細やかな感情表現力です。電話は温かいツールであってほしい。②は言葉です。豊かで美しい日本語の話し言葉を聴けるメディアであってほしいのです。**どちらも、当分はAIには期待できないでしょう。

【ユーザ協会の得意技！　こういう蓄積・ノウハウがあります。 中小企業が今、取り組むべきこと（1/2）】

これまで本連載では、企業経営に持続可能性への変革（SX）が求められている理由と、その中でのICTツールのお役立ちポイント、実際にICTを活用した具体的な事例を紹介しました。最終回となる今回は、日本でのSXの取り組み状況を踏まえつつ、実際に中小企業がSXを実現するためにICTで何ができるのかを考えていきます。

SXに取り組む日本企業の実態

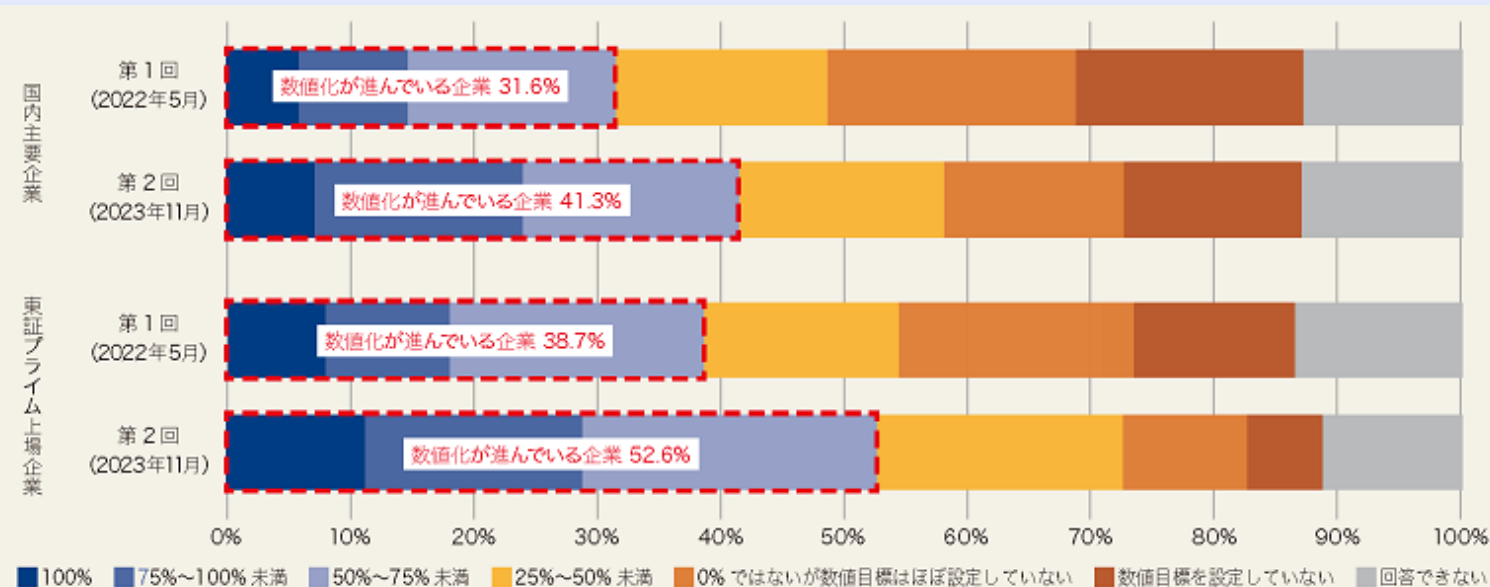
まずは、SXについて、現在の日本企業の立ち位置について説明します。

私の所属する株式会社日本能率協会コンサルティングでは、グループ会社と合同で、2023年11月に『サステナビリティ経営課題実態調査』を実施しました。本調査は、日本企業のサステナビリティ経営（環境・社会・経済の観点から、持続可能性の向上を目指す経営）の実像を探るため、国内主要企業約5,000社にウェブアンケート調査（有効回答率3.2%）を実施したもので、2022年5月に続き2回目の実施となります。

サステナビリティ経営の進め方としては、まず自社の企業価値と関係が深い重要課題（サステナビリティ経営目標）を特定し、それぞれ指標を定めて（数値化）取り組みを推進するのが一般的です。そこで、ここではサステナビリティ経営の取り組みの実態として、数値化段階の企業の割合と推移について見てみましょう。

調査は、回答企業に「サステナビリティ経営目標のうち、数値目標を設定している割合」を聞くことで実施しました。いくつかの特定した目標のうち、半数（50%）以上の数値目標を設定している企業を「数値化が進んでいる企業」とした場合、該当する企業の割合は、1回目は回答企業全体の31.6%であったのに対し、2回目では全体の41.3%と9.7ポイント増でした。中でも東証プライム上場企業に限定して見ると、1回目の38.7%に対し2回目は52.6%と13.9ポイント増えています（図1参照）。

図1：サステナビリティ経営目標のうち、数値目標を設定している割合



このように、全体としてサステナビリティ経営目標の数値化にまで取り組んでいる企業の割合は、1回目から2回目の1年半の間でもしっかりと増えていることが分かります。特に東証プライム上場企業は、TCFD※に基づいた情報開示が求められ、サステナビリティに関する情報開示が義務化されていることから、SXの取り組みに積極的で、さらに取り組みを進めていくものと考えられます。このような取り組みは企業の信頼を高めるため、今後は中小企業も含めてその他企業にも波及していくでしょう。

ICTでSXに取り組むには

ここからは、「SXに取り組む必要があるのは分かったけれど、実際にどう取り組めば良いか分からない」という企業に向けて、今、やるべきことを考えていきましょう。

【ユーザ協会の得意技！ こういう蓄積・ノウハウがあります。
中小企業が今、取り組むべきこと（2/2）】

SXの領域では、常に「**バックカスティング思考**」（図2参照）が重要だと言われています。バックカスティング思考とは、現在の経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報など）の制約をいったん置いておき、**将来の「ありたい姿」を起点に考える思考法**です。自社でSXに取り組む場合、現在あるものにとらわれていたら、必要な変革は起こせません。そのため、バックカスティングで考えることがSXの第一歩となります。いったん既存の技術や製品を忘れ、自社を取り巻く社会の未来像について考えてみるのです。

図2：バックカスティング思考とは



未来像が考えられたら、次のステップです。社会課題を解決し未来像に近づくために、現在の自社にどんなことができるのか、具体的な施策のアイデアを複数人で自由に出し合います。そして、これを体系的に整理し、取り組むべき重要課題をまとめます。この時、ただまとめれば良いわけではなく、自社らしさが明確に表れていることが必要です。同業他社が発表しているものも参照し、**自社の社員が自社ならではの課題（目標）だと認識できるか見直してみましょう**。自社らしさを明確にするためには、自社のミッションやビジョンに立ち返り、自社が大切にしたいこと、取り組みたいことは何か、を組み込むことが求められます。

その後、**重要課題を事業別、各部門への具体的な指標へと落とし込みます**。指標設定が曖昧にならないよう、しっかりと現状把握をした上で、定量化した目標を設定することが重要です。

これまでの第1回・第2回の連載で、**ICT導入の一番のポイントが「見える化」**であることを説明してきました。今回の「取り組むべきこと」の中で**最もICTが役に立つのが、現状把握から定量化までの指標への落とし込みの段階**と言えるでしょう。本連載第1回でCO2排出量算定ツールをご紹介しましたが、現在の活動量からCO2排出量を推計し、削減目標を設定するのはまさにこの局面です。

また、SX実現にあたって、社員全員が理念・ビジョンに共感し、同じゴールに向かって進むことが重要です。特にSXは長期的に、かつ全社的に取り組むことなので、この意識がずれていると同じ方向に進みません。**ICTにより目標を「見える化」することは、社員に対し展開しやすくなる上、達成度も計りやすくなり、結果、目標達成に向けた社員のモチベーション維持にもつながると言えるでしょう**。

このように、企業活動に必須と言われるSX実現に取り組むにあたっては、**初期の段階でICTを活用することで「見える化」をし、取り組みのハードルを下げることもできるのです**。

※ TCFD

Task Force on Climate-related Financial Disclosuresの略称で、各企業の気候変動への取り組みを具体的に開示することを推奨する国際的な組織。日本では「気候関連財務情報開示タスクフォース」と呼ばれる。

【お役立ち情報：6/20 2024サイバーセキュリティ対策講座①を開催しました。】

6/20に「**2024サイバーセキュリティ対策講座①**」を開催しました。その概要を少しご紹介したいと思います。今回は募集定員300名に対して700名を超える応募があり、サイバーセキュリティ対策の関心が高いことがあらためて感じました。当日は3部構成で開催しました。参考になりそうな点をご紹介します。

【第1部】サイバー空間をめぐる脅威の情勢、ビジネスメール詐欺等への対策

講師：警視庁 サイバーセキュリティ対策本部 担当官

- ランサムウェア被害報告件数は高水準で推移
- 二重恐喝型が主流だが、暗号化せずに脅迫するノーランサムが増加
- 多様化しているランサムウェア攻撃
- 経営に大きな影響がでている
- 復旧費用も増加
- 復旧のためのバックアップも狙われている（NWから切り離す、違うドメインに）**
- ビジネスメール詐欺も増えている 手口が巧妙化している**
- 警察に被害届を出さない理由は、被害がなかったからが70%弱
→ **警察に通報、相談、情報提供を！**
- 個人情報委員会報告（速報3～5日以内）や本人通知義務がある個人情報漏えい**

【第2部】自社セキュリティを見直そう！「情報セキュリティ診断」の活用について

講師：東日本電信電話株式会社 ビジネス開発本部

CXビジネス部セキュリティサービス担当 岡安 翔太 氏

- 自社のセキュリティ対策の現状を正しく把握し、最適なセキュリティ対策が必要**
- 現状把握の3つのメリット
 - ①リスク特定と優先順位の設定
 - ②コストの最適化
 - ③コンプライアンス遵守と信頼性の確保
- 5分でできる！情報セキュリティの自社診断**
<https://www.ipa.go.jp/security/guide/sme/5minutes.html>
- 基本的なセキュリティ対策**
 - ・クラウド防御 ・境界防御 ・端末対策
- NTT東日本のセキュリティアセスメント
おまかせセキュリティ事故駆け込み窓口 0120-790-113

【第3部】Microsoft OfficeからMicrosoft365へ、サポート期限切れのリスクを解説！

～今日からすぐにできるセキュリティ対策の基本知識を習得！～

講師：日本マイクロソフト株式会社 チャネルパートナー営業本部

パートナーディベロップマネジャー 加藤 聖也 氏

- Office 2016 / Office 2019 の延長サポートは2025 年10 月14 日に終了**
- 早期にクラウドのMicrosoft 365 に移行することは、業務の効率化や働き方改革の促進、長期的な投資対効果など、あらゆる面でメリットあり
- サポートが終了するとセキュリティリスクが増大（必要な更新がないため）**
- Officeはシェア率が高いため狙われやすい
- Microsoft365にはビジネスに必要なセキュリティ機能がオールインワン**
 - ・条件付きアクセス ・多要素認証 ・シングルサインオン ・機密情報保護
 - ・データ損失防止（DLP） ・フィッシング詐欺からの保護
 - ・メールのマルウェア対策 ・WindowsのDefender ・デバイスとアプリ管理
 - ・デバイスの管理 ・アプリの管理

【お役立ち情報：ChatGPTの進化が凄いですね。】

講演資料を作成するたびに生成AI情報をアップデートしていますが、凄い進化ですね。

ChatGPTの進化が凄い速さで進んでいます。今年2月には「テキスト文」をプロンプトにいれると**自動的に1分間動画を作成**してくれる**sora**が、4月には**自然な会話ができるGPT4o**がリリースされました。**秋にはiPhoneにそのGPT4oが実装**されるという発表がありました。

日本には来春ということです。これは欲しいですね。スマホに生成AIが入るとアプリはいらなくなりますね。これに気づいている人がどれくらいいるのでしょうか。先端技術分野を得意とする欧米の投資家の間では話題になっています。

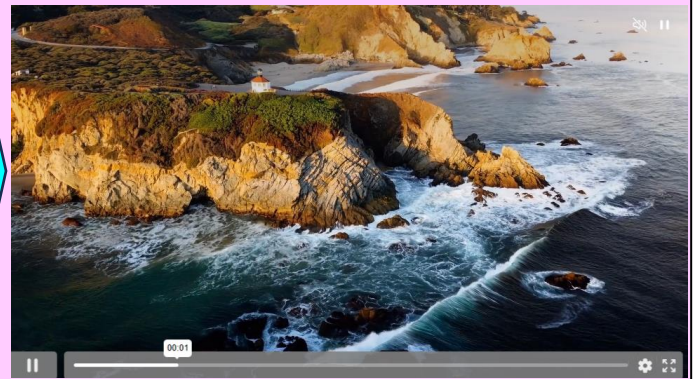
ガラケー携帯からスマホに変わったように、スマホから**AI-Phone**に変わっていくと私は考えています。実際アメリカでは**人工知能（AI）搭載デバイス「rabbit r1」**の発売イベントが、4月24日（米国時間）に開かれました。もっともシンプルなコンピューターというコンセプトの商品です。これがウェアラブル端末と連動する世界を想像するとワクワクしませんか。SFの世界みたいです。

soraは、**プロンプトに文書をいれるとsoraが自動的に1分間動画を作ってくれます。**

これは自社の宣伝にも使えますね。ここでご覧いただけます。↓

<https://openai.com/index/sora/>

プロンプト: ビッグサーのガレイ ポイントビーチ沿いの険しい崖に打ち寄せる波をドローンで撮影。打ち寄せる青い海が白い波頭を作り、沈む夕日の金色の光が岩の多い海岸を照らします。遠くに灯台のある小さな島があり、崖の端は緑の低木で覆われています。道路からビーチまでの急な下り坂はドラマチックで、崖の端が海に突き出ています。これは海岸のありのままの美しさとパシフィック コースト ハイウェイの険しい風景を捉えた景色です。



AIデバイス「Rabbit1」です。こんなAIデバイスにスマホは置き換わるのではないのでしょうか。

GPT-4o(「オムニ」の「o」)は、**テキスト、音声、画像、動画の任意の組み合わせを入力**として受け入れ、**テキスト、音声、画像の任意の組み合わせの出力を生成**する、より自然な人間とコンピューターの相互作用に向けた一歩です。オーディオ入力に応答できるのはわずか232ミリ秒で、平均320ミリ秒です。人間による応答時間会話で。英語のテキストとコードでGPT-4 Turboのパフォーマンスに匹敵し、英語以外の言語のテキストで大幅に改善され、APIでははるかに高速で50%安価です。GPT-4oは、既存のモデルと比較して、視覚と音声の理解に特に優れています。その自然な会話に驚きました。

(英語でしたが、留学経験のある英語講師も驚いていました。) ミリ秒 (millisecond) とは、1秒の1000分の1 (0.001秒) を表すものです。1000ミリ秒が1秒に相当します。

ここでご覧いただけます。 <https://openai.com/index/hello-gpt-4o/>

<原稿大募集しています！>

あなたの知識や経験等が他の会員さんのお役に立てば、嬉しいですね。いつでも待ってま〜す。写真等も大歓迎です。

送り先： f.kawabata@jtua.or.jp (川畑) までファイル (A4) を送ってください。

< 追加募集中 >

参加費無料

大前さんに「AI経営の最前線」を学ぼう ～AI活用によって生産性を向上させる経営戦略～

今後の事業経営のヒントは、このセミナーにあります。お見逃しなく!



一昨年にOpenAI社が「ChatGPT」を無料で公開して以降、様々な分野でAIが活用される機会が増えてきました。

AIを活用した生産性向上による経営戦略の策定は大企業だけでなく、全ての企業規模・業種の企業経営にきつと役に立つものであり、そのきっかけとして本セミナーをご活用いただければ幸いです。

今回は、AI経営の最前線をご紹介します、貴社のDXの推進や新たな経営戦略に役立てていただけるよう、大前さんのセミナーから多くのヒントを学んでいただきます。

募集人数 1,000名(先着順)

2024年7月25日(木) 13:30～16:30 ※13:10から接続できます
(13:30開演 16:30終了予定)

第1部 13:40～

あのマッキンゼーの世界的名コンサルタント大前さんに
「AI経営の最前線」を学ぼう

大前 研一 氏(ビデオ)、丹羽 亮介 氏(株)マインドシーズSG代表

第2部 15:20～

生産性向上に役立つICTツールの最新情報(仮)

加藤 聖也 氏(日本マイクロソフト(株) チャンネルパートナー営業本部 パートナーディベロップメントマネージャー)



BBT University
ビジネス・ブレイクスルー
大学学長、同大学院学長
大前 研一氏

【お申し込み】

※お知り合いの方にもぜひご紹介ください。

・参加費 無料

・下記URLもしくは右記の二次元コードからお申込みください。

<https://coubic.com/jtua-kinki/4028921>

※商工会議所等からのご紹介の方は、該当欄に名称を必ずご記入ください。

※お申し込み後、メールにてお送りするURLからアクセスしてご参加ください。



日本マイクロソフト(株)
加藤 聖也 氏

【お問い合わせ】

・連絡先メールは、各支部のホームページをご確認ください。

※電話 0120-20-6660 最寄りの支部につながります。

【主催】(公財)日本電信電話ユーザ協会 / 【共催】東日本電信電話(株) 西日本電信電話(株)



ユーザ協会では、ICT活用事例や電話応対教育メニュー等の情報を積極的に発信しております。

本協会の趣旨にご賛同いただき、最新のICT情報等を更にお知りになりたい方は、是非この機会に協会への入会をお願いいたします。

入会には年会費がかかります。年会費の額はユーザ協会各支部までお問い合わせください。

ユーザ協会



プライバシーポリシー(プライバシーに関する公益財団法人日本電信電話ユーザ協会の確約)

公益財団法人日本電信電話ユーザ協会は、常日頃より関係者の情報を厳正に管理し、プライバシー保護に努めています。ユーザ協会は、関係者様の個人情報情報は当協会の定款に基づく事業目的以外には、使用致しません。なお、頂いたメールアドレス宛に、今後協会の各種情報を送付させていただきます。

< 募 集 中 >

公益財団法人 日本電信電話ユーザ協会

【2024年度 全国参加型ICTオンライン講座 第2弾】

ユーザ協会会員様は

参 加 費 無 料

ビジネスパーソンのDXリテラシー講座

～DXとは何かを確認して、企業でDXをどう推進するかを学びましょう！～

人手不足対策、コスト削減、生産性向上など、企業経営課題が山積する中において、昨今全世界で話題となっているデジタルトランスフォーメーション(DX)をどのように始めたらよいか、またどのような方法で推進すればよいかについて、具体的かつ分かり易く解説し、更に経営者や管理者・業務担当者のそれぞれの立場で役割を考え、行動に直結する活用術を学ぶリテラシー講座です。

経営者・管理者の皆さま、更にDX推進担当者の皆さまは、この機会に是非ご参加ください。



【開催日時】 2024年 8 月 6 日(火) 13:30 15:00

【対象者】 中堅・中小企業の経営者、管理職、DX担当者 等

【講師】 (公財)日本電信電話ユーザ協会近畿事業推進部長 川畑 文雄 氏

【定員】 300名

【申込方法】 以下URLまたは右QRコードからお申込みください。

<https://coubic.com/jtua-kinki/2416987>



【参加方法】 申込時にアクセスURLをメールにてお送りいたしますので、URLからアクセスしてください。

【参加費】 一般 5,500円(税込)、ユーザ協会会員は無料

【主催】 (公財)日本電信電話ユーザ協会

【共催】 東日本電信電話(株)、西日本電信電話(株)

(注)1.本講座の録音・録画は禁止とさせていただきます。ご協力の程お願いします。 2.本講座の内容は、若干変更となる場合がありますので、ご容赦ください。

【問い合わせ先】 各支部のホームページをご確認ください。
電話 0120-20-6660 最寄りの支部につながります。



ユーザ協会では、ICT活用事例や電話応対教育メニュー等の情報を積極的に発信しております。

本協会の趣旨にご賛同いただき、最新のICT情報等を更にお知りになりたい方は、是非この機会に協会への入会をお願いいたします。

入会には年会費がかかります。年会費の額はユーザ協会各支部までお問い合わせください。

ユーザ協会



プライバシーポリシー(プライバシーに関する公益財団法人日本電信電話ユーザ協会の確約)

公益財団法人日本電信電話ユーザ協会は、常日頃より関係者の情報を厳正に管理し、プライバシー保護に努めています。ユーザ協会は、関係者の個人情報は当協会の定款に基づく事業目的以外には、使用致しません。なお、頂いたメールアドレス宛に、今後協会の各種情報を送付させていただきます。